

## セーフティネット医療※

※重症心身障がい、筋ジストロフィーを含む神経・筋難病、結核などの、他の医療機関ではアプローチが困難な分野の医療



## 依存症治療の最前線

### 自主性を尊重する方法で 患者さんの未来を救う

3つの依存に対応した国内拠点

1963年に日本初のアルコール依存への専門病棟を設置した久里浜医療センターは、日本の依存症治療の草分け的存在です。2011年に国内で初めてインターネット依存症の、2012年にはギャンブル依存症の専門外来を設置し、半世紀にわたって日本の依存症の治療・研究を牽引しています。

依存症の代表といえるアルコール依存の場合、お酒を飲むことが生活の中心になり量をコントロールでき



なくなって日常生活に支障をきたすようになりますが、「より深刻なのは体の障害を伴うこと」と樋口進院長は指摘します。肝臓はもちろん血圧の上昇など、世界保健機関（WHO）では60以上の病気の原因になるとされています。そのため、精神的なアプローチと並行して体の治療も必要という点が、ギャンブルやインターネット依存との大きな違いなのです。

一方、ギャンブル依存の原因として多いのはパチンコやスロットで、40代を中心とした男性が多いといえます。アルコール依存は飲酒期間の影響もあり50代の男性が中心ですが、女性は依存症になるまでの期間が男性より短いといえます。



ところが、インターネット依存ではほとんどが男性で平均は19歳くらい。その原因はゲームで、ADHD（注意欠如・多動性障害）などの発達障害を伴う場合も多く、自宅の部屋に引きこもり昼夜も逆転して暴力的になったりするなど、本人の人生に大きな支障となる場合があるのです。

### 精神的サポートが治療の基本

3つの依存症に共通するのは、頭の中は依存対象で占められているため、最終的には本人が納得して行動に移さない限り、治療は前へ進まないということです。アルコール依存症では体の治療以外に、お酒が飲めないような体質にする薬などを用いた薬物治療も行いますが、やはり治療の中心は患者さんに寄り添い、考えを変えていく精神的な支援となっています。



精神的なアプローチとしては、まず疾患教育があります。依存症とは何か、自分の生活にどのような悪影響を及ぼすかを、個人的にカウンセリングをすることで考え方を変えていきます。また、数名の患者さんでグループとなって、医師のアドバイスのもと話し合う認知行動療法も行われています。医師や看護師をはじめ、臨床心理士・ケースワーカー・作業療法士・薬剤師などは、チームとして退院後も依存せずに生活ができるようサポート役に徹し、あくまでも患者さん本人が依存症の怖さに気付き、元の生活を取り戻したいという気持ちを確認できるように支援しているのです。



入院期間の目安は、アルコールやギャンブルで約10週間、インターネットでは約2カ月で、退院後は通院治療を続けます。樋口院長は「入院は自分を見つめ直すための“きっかけづくり”のようなもので、より大切なのは退院後の通院」といいます。定期的に通院すること自体が、“自分が治す”という意思表示でもあり、その意思を一緒により固くし、もし、また始めてしまっている場合は話し合って元に戻していくのです。



▲敷地内にある通称“断酒の丘”。海に向かって叫び、断つことを誓う

### より深刻なインターネット依存

ただ、縁を断つことが可能なアルコールやギャンブル（アルコールなら“断酒”）とは異なり、現代社会においてインターネットを完全に遠ざけることはほぼ不可能です。そのため、ゲームだけを止めるという線引きが必要となります。また、アルコールやギャンブルの患者さんは社会経験がある大人が大半なので、自分で将来に向けて“どうすべきか”を自問して治療にもつなげやすいのですが、インターネットの場合は大半が未成年です。親に頼った生活なので依存症の弊害を自分で想像しにくいという側面があり、他の依存症と比べても重症化への進行が速いという特徴もあります。こうした特殊性を踏まえ、樋口院長は「日本の将来を担ってくれる子どもたちの未来が、脅かされているという現実を知ってほしい」と訴えます。

インターネット依存症の場合、児童精神科的な側面が強く国内にはまだ専門的に治療できる施設がほとんどないため、日本中から患者さんやご家族が同院を訪れています。ゲームが原因で生活が乱れ成績が下がってくるなどの場合は、まずは学校に、そして各都道府県と政令指定都市にある精神保健福祉センターなどへ早めに相談することが重要です。

樋口院長は「当院が担う役割は大きく、今後も社会の変化に伴うさまざま依存症にも応えて

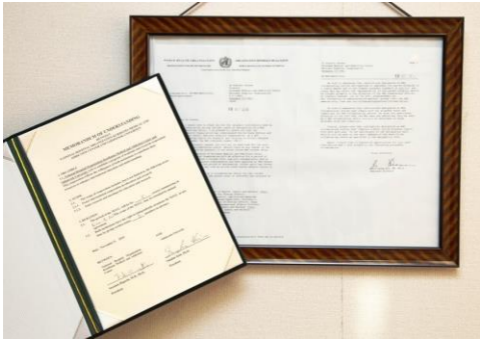
いきたい」といいます。専門的に治療にあたっている3つの依存症以外にも、薬物や、行き過ぎた行動嗜癖（こうどうしへき：特定の行為を極度に好む依存）を伴う買い物や性行為といった問題にも、将来的には対応していく必要があると考えているのです。



▲テレビドラマ「チーム・バチスタ4」で撮影に使われた、戦前からある廊下

### 国内外に貢献する久里浜医療センター

久里浜医療センターでは、依存症に対する新薬開発のための治験にも積極的に参加しています。また、その治療法は“クリハマ方式”として世界的にも知られており、海外の医療関係者との交流も盛んです。アジア圏をはじめ、アメリカ・フランス・エジプトなどから留学生を受け入れ、治療や研究の成果を国内だけでなく世界にも発信しています。また、樋口院長ら同院による長年の働きかけもあり、今年改定予定のWHOのICD-11（国際疾病分類第11版）では、インターネット依存が初めて“ゲーム障害”という名で、正式な病名として登録される見込みとなっています。



▲国際貢献を象徴するWHOなどとの協定書

### ■久里浜医療センター（神奈川県横須賀市）



許可病床数 332 床。患者の自主性を尊重した治療“クリハマ方式”で知られる依存症治療の国内拠点病院で、WHOから国内唯一のアルコール関連問題研究・研修協力センターとして指定されている。また、精神疾患や認知症、内視鏡検査による治療にも力を入れている。